

平成25年度入学試験問題

(推薦入試Ⅰ)

小 論 文

観光産業科学部 産業経営学科

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

コカ・コーラ社のグローバル戦略¹に関する文章を読んで設問に答えなさい。

【設 問】

- 問 1. コカ・コーラ社の歴代 CEO²が実践してきたグローバル戦略を参考にして、コカ・コーラ社のグローバル戦略の歴史について 300 字以上 400 字以内で要約しなさい。
- 問 2. グローバリゼーションを成功に導くためには、企業はどのような戦略を展開すべきか、あなたの考え方を 600 字以上 800 字以内で説明しなさい。

非公開

¹ グローバル戦略とは、他の国々に対して製品やサービスを提供する戦略のことである。

² CEO(Chief Executive Officer)とは、企業における最高経営責任者のことである。

³ クロスボーダー取引とは、国際間での製品・サービスの取引のことである。

⁴ フラット化とは、インターネットの普及や各国の経済発展により経済格差等のさまざまな差異が縮小し、世界が一体化して同等な条件で競争する時代になっているということである。

非公開

5 規模の経済とは、大量生産することで1製品あたりの製品原価を低減する経済効果のことである。

6 発行部数 100 万部を誇る世界最大の英文ビジネス雑誌

7 アイヴェスターは、ゴイズエタの後継者として彼の限りなき国際成長路線を踏襲するが、任期中にアジア通貨危機等による世界経済の後退、欧州における汚染問題や海外企業の M&A 不成立等が重なり、企業業績が低下していくことになる。その結果、取締役会で解任されることになる。

非公開

非公開

(パンカジ・ゲマワット, 『コークの味は国ごとに違うべきか』,
文藝春秋, 2009年, 38～49ページより一部加除修正)

平成25年度入学試験問題

(推薦入試Ⅰ)

小 論 文

観光産業科学部 産業経営学科

出題の意図

著者であるパンカジ・ゲマワットは、杓子定規的なグローバル戦略に対して一石を投じたハーバード・ビジネススクールの教授である。彼は、画一的な製品・サービス、管理手法の標準化等を強調する従来のグローバル戦略に対する懐疑的な視点をコカ・コーラ社(他にもウォルマート、ハーゲンダッツ等)の事例を通じて指摘している。確かに、コカ・コーラやマクドナルド等、標準化された製品が世界中に氾濫しているが、その一方で地域ごとにユニークな製品も存在している。グローバル戦略を展開する場合、これらの比重をどのように調整するかが重要であり、彼は短・中期的には「セミ・グローバリゼーション」の状態が維持されると指摘している。

このような視点から、ローカルエリアにおける観光ビジネス等の産業が、今後、どのような方向へ進んでいくべきかを学生が考えるきっかけとなるような意図を含めて出題している。また、入学後に経営に関する高度な専門性を追求しつつ幅広い教養を習得する人材を求めるといふ産業経営学科のアドミッションポリシーに沿う形で本問のような若干、専門的知識を意識したテーマ設定になっているのである。